

## 平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	スポーツトレーナー育成の高度化		
法人名	学校法人吉田学園		
学校名	吉田学園社会体育専門学校		
代表者	理事長 吉田 松雄	担当者 連絡先	プロジェクト事務局 辻山栄子 TEL 06-6386-0247

### 1. 事業の概要

成熟社会の進展と共に、国民の健康増進や余暇の過ごし方に対する意識はますます高まっており、スポーツインストラクターに求める技術や知識も幅広く高度なものになっている。特に最近では、幼児・児童や高齢者対象の運動能力アップや運動機能回復等を中心とした利用者からのニーズの拡がりや、スポーツ施設を運営する事業者からのマネジメント能力への期待が出ており、それらに応えられる4年制の高度専門士を育成するための教育プログラムと教材を開発した。そのために必要な調査および研究活動、開発教材の検証のための実証事業も実施した。

### 2. 事業の評価に関する項目

#### ①目的・重点事項の達成状況

##### 【開発】

##### ■高度専門士育成教育プログラム(カリキュラムとシラバス)

専門学校が4年制学科を設置するために必要なカリキュラムを提案できた。卒業生の受け入れ企業へのヒアリングから、専門知識や技術だけでなく、人間力としてのコミュニケーション力やホスピタリティマインド、正規雇用のキャリアパスとして重要なマネジメント能力の養成も期待されたので、その要件も取り入れた。

##### ■保育入門(学生用教材)

保育を専門に学ぶ学科以外で、将来子どもと接する学生のための保育の入門書を目指したが、学生の反応も概ね良好で、わかりやすい教材が開発できた。

##### ■キッズコーチング技術(教師用教材)

子どもコーチングを将来行なう学生にコーチング技法を教える教員を育成する教材ということで、開発にはかなり苦労したが、教員研修は大好評で、使いやすい実践的教材が開発できた。

##### ■サービス産業におけるマネジメント教本(学生用教材)

文字が多く、学生にはやや難解な印象を与えるかもしれないが、内容的にも卒業して社会人になってから読み返すと役立つであろう教材になった。

##### 【調査研究】

##### ■社会体育系専門学校の現状カリキュラムの調査

専門学校・大学のカリキュラムを調査し、学校単位の特徴的な取り組みについてはある程度の把握ができた。

##### ■スポーツ系インストラクターやトレーナーに対するニーズ調査

スポーツ系インストラクターやトレーナーといった高度専門士が将来的に関わる可能性があると思われる諸産業から10サンプルを抽出し、ヒアリング調査を実施して、企業側のニーズを考察できた。

#### ■顧客サービス業における組織とマネジメントの実態

青梅慶友病院、株式会社コムスン、ワタミ株式会社の事例比較研究により、フィットネスクラブ事業のビジネスモデルを分析し、今後、スポーツトレーナーに必要とされるスキルを提案することができた。

#### ■少子高齢化の進む成熟社会におけるスポーツ産業の動向とビジネス展開について

内容、規模、可能性からスポーツ産業を分析し、今後のビジネス展開の可能性を検討し、進化するスポーツ産業を支える人材育成について考察することができた。

##### ②事業により得られた成果

以下のテキスト5冊

■高度専門士育成教育プログラム&調査報告300冊

■保育入門750冊

■キッズコーチング技術500冊

■サービス産業におけるマネジメント教本500冊

■調査&研究報告書300冊

##### ③今後の活用

吉田学園社会体育専門学校において、開発カリキュラムを採用した4年制課程の設置を目指すと共に、「キッズコーチング技術」を教員研修に取り入れ、「保育入門」や「サービス産業におけるマネジメント教本」の教材を利用する。また、協力専門学校を始め、開発教材の利用が有効と思われる分野の専門学校に対し、その利用の啓蒙を進めるが、保育入門については利用を検討する協力専門学校があるので、印刷部数を増加して配布した。

##### ④次年度以降における課題・展開

各調査&研究を通じて、我々の予想以上に「ホスピタリティ・マインド」「コミュニケーション能力」等が企業サイドから求められていることがわかった。

スポーツ系にかかわらず、4年制の専門学校教育では、「ホスピタリティ・マインド」醸成のための人間教育科目の充実が必要である。そのためのプログラムを開発する必要がある。

### 3. 事業の実施に関する項目

#### ①ニーズ調査等

##### ■社会体育系専門学校の現状カリキュラムの調査

対象校の選定基準として、専門学校と大学ともに、社会体育系指導者資格を取得する際に講習や試験の一部免除が受けられる制度を有する学校とした。社会体育系専門学校については21校のパンフレット等を取り寄せ、カリキュラムの内容としてどのような科目等が準備されているかの確認・整理作業を行った。ただし、専門学校のパンフレットにはすべての授業科目が掲載されていないために、専門学校に共通する特徴を抽出することは困難であったが、学校単位の特徴的な取り組みについてはある程度の把握ができた。

一方、調査対象大学は上記の選定基準を満たした大学の中から、さらに「体育系学部・学科を有する大学(国立大学法人与私立大学)」と「地方教員養成大学(保健体育講座等で社会体育系指導者資格が取得可能)」の2属性を加味して20大学をランダムに抽出し、社会体育系指導者資格に囚われずに調査対象大学の多くに共通して用意されている科目を把握した。さらに、各大学の授業科目の中身についてもホームページ上の公開情報を基に検討し、興味深い科目について大学毎に抽出して整理した。

##### ■スポーツ系インストラクターやトレーナーに対するニーズ調査

フィットネス産業、医療・介護産業、教育産業、健康産業等のスポーツ系インストラクターやトレーナーといった高度専門士が将来的に関わる可能性があると思われる諸産業から10サンプルを抽出し、ヒアリング調査を実施した。ヒアリングを行った対象としては、経営者、マネージャー、指導者等の直接的に人事に関わる立場にある担当者を選択し、それぞれの立場から専門学校の卒業生に期待する能力、技術、資格等を聞き取り調査した。特に、経営者やマネージャーには、キャリアルートについての考え方を聞き、正社員としての継続した就業が可能になる人材像をヒアリングし、その要素を抽出した。

##### ■顧客サービス業における組織とマネジメントの実態

青梅慶友病院、株式会社コムスン、ワタミ株式会社の3つの事例を「サービス従事者の業務特性」「正規従業員と非正規従業員」「サービススタッフと顧客の密着度」「現場管理者とサービススタッフの密着度」等の比較分析により、フィットネスクラブ事業のビジネスモデルを構築し、今後、スポーツトレーナー養成事業に対するインプリケーションを引き出した。

##### ■少子高齢化の進む成熟社会におけるスポーツ産業の動向とビジネス展開について

スポーツ産業の発展についてまとめ、「内容面」「規模面」「可能性」からスポーツ産業を分析し、今後のビジネス展開の可能性を検討し、進化するスポーツ産業を支える人材育成について考察した。

## ②カリキュラムの開発

### ■高度専門士育成教育プログラム(カリキュラムとシラバス)

「社会体育系専門学校の現状カリキュラムの調査」「スポーツ系インストラクターやトレーナーに対するニーズ調査」の結果から「ホスピタリティー」「コミュニケーション」といったキーワードが導き出された。

吉田学園社会体育専門学校のカリキュラムを土台にして、4年制専門学校課程で必要とされるカリキュラムを作成した。「ホスピタリティー」「コミュニケーション」に関連した科目を主にした「人間教育科目群」を設置したことが特徴的である。

### ■保育入門(学生用教材)

吉田学園教員が30時間程度のシラバス、指導要点をまとめ、それをたたき台に分科会委員にて検討をし、その後、有限会社Ariesにより教材制作を進めた。社会体育系の学生は、子供と接し、教えている機会は多々あるが、実際にはそれが保育の知識で行っているわけではない。そのような学生にきちんとした概念・知識を教育するという観点から教材を制作することを留意した。保育に関しては、まったくの初心者という設定。できるだけ絵を多くしてわかりやすい教材とした。

### ■キッズコーチング技術(教師用教材)

ティーピーアイジャパン株式会社から、コーチングのプログラムソースをご提供いただき、株式会社日本スクールシステム機構によりテキスト案を作成、それをたたき台に分科会委員で検討を重ね、テキストを作成した。

### ■サービス産業におけるマネジメント教本(学生用教材)

専門学校3～4年生が理解できるサービス産業のマネジメント教本の開発を目指した。サービス産業におけるマネジメントの全体像がわかるよう、付加価値構造を中心とし、マーケティングとCS、人材マネジメントを含めたフレームを示す。事例やエピソードを前面に出し、理論の部分は「囲み」等を用いて本文から外す等工夫した。

## ③実証講座

### ■教員研修「キッズコーチング手法」

開催日時:平成19年2月16日10時30分～17時

開催場所:東京GRSビジネスセンター八重洲annex 会議室1

受講対象者:専門学校教員

受講者数:23名(申込26名、当日3名欠席)

受講者の反応:「教材は効果的に活用できるようつくられていた」「高度専門士(4年制)課程で教える教員にとって役立つ内容である」「今後の教育に取り入れたい」等

### ■実証講座「保育入門」

開催日時:平成19年2月21日①9時～10時30分/②10時45分～12時15分

開催場所:吉田学園社会体育専門学校

受講対象者:①社会体育学科 スポーツインストラクター専攻 I 年

受講者数:①13名②14名

受講者の反応:「第1章や第2章には絵柄などが多く入っていましたが、第5章は絵柄が少なく、漢字が多かった」「テキスト自体は非常に要点がまとまっており使い易そう」「イラスト部分が少なく難しそうだという学生の声もあった」等

※「サービス産業におけるマネジメント教本」については時間の関係で実証講座を実施できず、学生に配布して感想を聞くことにした。

## ④その他

・大学はすべてカリキュラムをWeb上で公開していたが、専門学校では公開していない学校もあり、情報開示という点で遅れをとっていることが再認識できた。

・大学研究者のコラボレーションで、特に調査研究手法では専門学校職員に取っても学ぶ点が多くあったように思う。